

# 看護医療学図書室の「ぽれぽれ文庫」

あかほり み わ こ  
赤堀美和子

(湘南藤沢メディアセンター看護医療学図書室係主任)

看護医療学図書室では、2010年度の秋学期より図書室の一角に「ぽれぽれ文庫」と称する小さな軽読書コーナーを新たに設置した。開設から1年経過したところで、この文庫について報告したい。

## 1 文庫開設までの経緯

「ポレ ポレ (Pole pole)」とはスワヒリ語で「ゆっくりゆっくり」という意味で、何となく耳に親しみやすい語感が、肩がこらず、リラックスして読むことができる軽い読み物の書架を表すのにふさわしいということで紆余曲折を経てこの名称に決まった。このコーナーの設置の目的は、学期期間中、授業や実習などで毎日忙しく過ごしている看護医療学部生、健康マネジメント研究科の大学院生たちが、授業や自習の合間の息抜きとして気楽に読める、専門書以外の図書を一ヶ所に集めて提供することにある。かなり以前から学生たちから図書室に専門書以外の図書も置いてほしいという要望を受けることはあったものの、2001年の図書室創設以来、専門書がまだ十分に揃っていない段階での実現は時期尚早と思われた。その後、2009年頃になって、必要な専門書がほぼ揃い、そろそろ専門以外の図書の購入が可能であろうという判断から、予算措置や配架場所の検討などの準備期間を経てようやく実現に至った。

## 2 選書方針

この文庫は、収容冊数180冊程度のごく限られた書架スペースのため、年間の予算額は図書資料費の内10万円の範囲内で新刊書を中心に購入している。利用者にとって常に新鮮な本を提供するために、保存期間は原則的に2年間程度と定めている。大まかな選書基準としては、一般書の中から、若い読者の関心が高い小説、趣味の本(手芸、料理、旅行、写真集など)、エッセイなどを、出版情報カタログやデータベースなどを選書ツールとして収集している。また利用者の声をできる限り反映させることを重視し、コーナー書架の上にリクエストボックスを置き、随時、購入希望を受け付けている。基本的に、

購入希望を受けた図書はすべて購入する方針である。ただし、マンガ本は購入対象としていない。これまでに学生からの購入希望を受けて、村上春樹や東野圭吾などの人気作家の小説なども購入した。

さらに、学期ごとにテーマを決めた上でまとめて選書も行っている。2010年度秋学期には、学生からの要望をきっかけにして、最新の映画の原作本を選定・収集した。また、2011年度春学期には、「青田基金<sup>1)</sup>の研修先特集」として、看護医療学部に設置されている青田基金による海外研修制度を利用して学生たちが実際に研修に出かける国々をテーマとした図書を選定した。具体的にはイギリス、アメリカ、オーストラリアに関する最新のガイドブックや旅のエッセイを購入して書架に並べた。また、購入以外に寄贈の例もある。ごく最近では慶應義塾の元教員の方からご自身の著書のうち比較的新しい本を図書室に寄贈するとの申し出があった。ぜひとも看護医療学部の学生たちの目に触れるところに置いて読んでほしい、というご希望を受け、ご寄贈いただいた図書11冊を「ぽれぽれ文庫」に加えることとなった。



## 3 請求記号の体系、整理方法

図書の請求記号は、1段目を配置記号の「PO」とし、2段目はNDC分類、3段目は追込番号としている。NDC分類については、細分せずに原則的に「網

目」レベルまでを付与している。付録にCDなどがついていないものについては、許諾処理をして、貸し出しが可能なものは館外貸し出しも行っている。

なお、図書の装備については、表紙カバーも本を選ぶ上での大切な情報と考え、公共図書館などと同様にカバーをつけたままブックカバーをかけた装備を行い、配架している。また、書架には文庫の図書の全タイトルをその場で一覧できるようにリストを作成し、ファイルにして置いている。

#### 4 問題点

実際に文庫を開設してみると、問題も生じてきた。メディアセンターの図書館システムがKOSMOS IIIに移行後、Web上から利用者自身が直接、他キャンパスの図書の取り寄せを申し込むことが可能となり、図書相互貸借(ILL)の申込み件数がかなり増加している。その影響を受け、話題になっている小説などは、図書が到着し、書架に並べたとほぼ同時に他キャンパスの利用者からオンラインで予約の申込みが入り、すぐに貸し出され、またその次にも別の利用者から予約が立て続けに入り、図書が書架に落ち着く暇がないというのが実際の状況である。そのため、「ぼれぼれ文庫」の書架は、いつ見ても棚に並んでいる図書の数がかなり少なく、閑散とした状態となっている。これは大学全体としては、購入した新着図書が活発に貸し出され、利用されているということで喜ばしいことではあるが、一方で看護医療学部の学生たちが並んでいる棚の中から読みたい本を探して利用してもらおう、という本来の目的をなかなか実現することができないという残念な結果になっている。そこで、当面の対応策として、新着図書については到着後の1週間を図書館システム上で貸出禁止扱いにしている。これによって、新着図書を文庫の書架に並べた際に、まず最初に看護医療学部、健康マネジメント研究科の学生たちの目に触れ、優先的に室内で利用できるようになった。それでも人気のある図書は、貸出可能になったとたんに次々に予約の申し込みが入り、キャンパス間を頻繁に移動しているのが実情である。今後は、この問題の解決をはかるための新たなルール作りを検討する必要性を感じている。

#### 5 コレクションの今後の展開について

実際に運用して1年経過したが、図書が書架に留まっていなかったことや、授業や実習で忙しく、図書室に長く滞在する時間もない学生たちにとってはこのコーナーの図書が活発に利用されているとは言い難く、果たして魅力的なコレクションを構築しているのかどうか、やや疑問を感じている。ただ、2011年度春学期の青田基金の研修先特集の図書については、研修の直前に図書を借りていく学生の姿をよく見かけており、役に立っていることがうかがえる。今後、この「ぼれぼれ文庫」をより一層発展させ、学生たちの興味や関心に沿った魅力的な品ぞろえとしていくための工夫がもっと必要であると感じている。学生からのリクエストを増やすためには、例えば、図書室をよく利用する学生たちに対して直接ヒアリングやアンケート調査を行うことも検討している。また、図書室内でコンピュータやAV機器の貸出・返却や相談に応じている学生アルバイトスタッフにも選書への協力を依頼することも検討したい。また、看護医療学部の教員に対しても、最近刊行された本の中から学生たちにぜひとも読ませたい読み物をコメント付きで推薦してもらい、それをもとにした「先生のおすすめ本コーナー」なども実現していきたいと思っている。将来的には、現在の文庫がある場所にソファなどを置き、くつろいだ雰囲気の中で図書を気軽に楽しめるようなスペースにしていきたい。

これからも「ぼれぼれ文庫」がますます充実し、学生たちの読書への好奇心を喚起し、憩いの場としてますます親しまれるよう、コレクションの質の充実と環境の整備とを積極的にはかっていきたいと考えている。

#### 注

- 1) 青田基金とは、「青田与志子記念慶應義塾大学看護医療学部教育研究奨励基金」のことで、慶應義塾大学看護医療学部学生および健康マネジメント研究科看護学専修生による外国での学習・研究活動を奨励している基金。